

クラス番号	612	担当教員名	堀場 純矢
テーマ	児童福祉施設における子ども・家族への支援と職員の働き方		
著書・論文 研究課題等	主著・論文：「児童養護施設における小規模化の影響：職員の労働環境に焦点を当てて」 『生協総研賞・第14回助成事業研究論文集』生協総合研究所，2018年 『〈施設養護か里親制度か〉の対立軸を超えて：「新しい社会的養育ビジョン」とこれからの社会的養護を展望する』明石書店，2018年 『みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ』みらい，2019年 研究課題：児童養護施設における小規模化の影響、児童養護施設職員の働き方		

### ゼミナール概要

キーワード：乳児院、児童養護施設、子どもの貧困・虐待、子ども・家族への支援、職員の働き方

#### 目的、内容、方法等：

近年、乳児院・児童養護施設などの児童福祉施設では、小規模かつ地域分散化が進められています。とくに児童養護施設(以下、施設)では、小規模化が進むなかで家庭的な環境で子どもたちをケアすることができる一方、ユニットごとに少人数の職員が分散して勤務することにより、子どもとのかかわりや職員の働き方が大きく変化しています。さらに、今後は施設の高機能化・多機能化(ケアニーズの高い子どもへの支援、里親支援、一時保護など)も進められていくことになります。

そこで、このゼミではこうした状況をふまえて、①親が子どもを虐待するに至った背景に何があるのか、②施設で子どもと家族をどのように支援していくのか、③施設で職員が安心して働き続けるためにはどうしたらよいかなどについて学んでいきます。そこで、全国児童養護問題研究会全国大会・こどものしごとフェスティバルに参加するなかで、施設職員や施設経験者、他大学の学生との学習・交流をとおして、施設について体験的に理解を深めていきます(2020年度は中止、2021年度は開催未定)。

その他、希望者を対象に、全国各地の先駆的な実践をしている児童養護施設・乳児院などの見学(例：京都、大阪、福井、静岡など)も行っています。ゼミではこれらの活動をとおして、卒業論文(以下、卒論)を完成させるとともに、将来、児童相談所や児童福祉施設で働くために必要な知識を身につけることを目的としています。

#### 授業計画：

3年生の前期は、学生同士の交流を行った後、児童福祉に関するテーマごとにグループ分けを行い、グループ作業を行います。それと並行して、こどものしごとフェスティバルや全国児童養護問題研究会全国大会に参加するとともに、グループごとに施設見学に行きます。後期は、夏休みの課題についての報告を行った後、児童福祉に関する専門誌(2020年度は『子どもと福祉』vol.12、購入補助有)をもとに、レジュメの作成・報告・意見交換などを行った後、卒論に向けての個別発表なども行います。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿を行う場合があります。

4年生の前期は、卒論の執筆・添削を行うとともに、ゼミで定期的に卒論に関する報告会などを行っています。そして、後期の初めに卒論の下書きを提出し、その後、添削や修正などを経て、卒論を完成させます。なお、希望者に対して、国家試験に向けた支援も行っています。

※ゼミを希望する学生はエントリーシートに、①現在、関心を持っているテーマと概要、②卒業後に考えている職業(現段階)についても記載して下さい。また、可能であれば、3年生のゼミ開始前までに、大学図書館2階・雑誌コーナーにある『子どもと福祉』vol.13またはvol.12(明石書店)を事前に読んでおいてください。

### 担当教員からのメッセージ



担当教員は児童養護施設の元職員です。このゼミは、①仲間と積極的に議論し、主体的に学ぶ姿勢のある学生、②将来、児童相談所や乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・母子生活支援施設などの児童福祉施設職員、公務員(福祉職・保育職・公安職など)として働きたいと考えている学生、③全国児童養護問題研究会全国大会や施設見学などに積極的に参加したいと考えている学生を歓迎します。メリハリのある、楽しいゼミにしましょう。